

「横浜北」に4千万円

下北縦貫道の未着手区間16年度事業化

国交省が予算配分方針

下北半島縦貫道路の未着手区間である「むつー横浜間」約21キロの一部が2016年度に新規事業化され、国土交通省が同年度予算で4千万円を配分する方針であることが、31日分かった。

複数の関係者によると、事業化されるのは同区間南半分約10キロのもよう。名称は「横浜北バイパス」とし、

16年度は調査・設計を行う。

同縦貫道路のうち横浜町吹越と六ヶ所村尾駁を結ぶ「吹越バイパス」(5・8キロ)も17年度中の開通に向けた整備が進んでおり、国交省は同バイパスについて11億円を配分する見通しだ。「むつー横浜間」をめぐっては、石井啓一国土交通

相が3月21日に青森市で講演した際、16年度の新規事業化について「前向きに検討したい」と発言していた。

むつ市から七戸町までを結ぶ地域高規格道路である下北半島縦貫道路は、国が予算を補助し、県が国道279号に並行するようにして整備を進めている。全区間約68キロのうち、六

ヶ所村から野辺地町にかけての計約19・5キロが開通済み。未着手区間「むつー横浜間」の北側に当たる「むつ南バイパス」(8・7キロ)と、南側に当たる「横浜南バイパス」(7・0キロ)も既に整備に入っている。

並行する国道279号では12年2月に猛吹雪による大規模な車両立ち往生が発生し、大きな問題となった。同縦貫道路には冬期間の迂回路としての役割のほか、物流の促進、下北半島で原子力関連施設の事故が起きた際の避難道としての活用などが期待されている。

(本紙取材班)